

B-8 インジゴ染布の有孔溶媒による脱着曲線について
お茶の水女大家政 9 田口美代子 矢部幸彦

1. インジゴ染布上の染料の染着状態をしらべる目的で、溶解度を異にする溶媒からの溶出速度の差を利用して、染着状態(表面付着染料・吸着染料等)を考察した小畑俊哲等の成果(第25回総会講演B44)をたしかめるため、昨年度試作(第26回総会講演B32)した浴濃度連続測定用ミクロセルを用い実験し、若干の成果を得た。

2. ④. 染布の調製: モメン布(油化協標準布)をハイドロサルファイト還元法で、助剤なし、浴比1:100, 25℃にて、90分染色し、空気酸化、酸通しの後、30分すすぎ乾燥する。

⑤. ソーピング: ④の染布を(セッケン1g/100ml水)中で、沸とう30分、湯ですすぎ乾燥する。

⑥. 抽出: 有孔溶媒①メタセロソルブ, ②メタセロソルブ+水(4:1)混合液, ③メタセロソルブ+エタールアルコール(4:1)混合液, ④メタセロソルブ+アミルアルコール(4:1)混合液, 各50ml中に染布0.5gを浸し、溶液濃度の経時変化を観察した。

3. 有孔溶媒①, ②およびソーピング布の場合は、溶出濃度曲線は一定飽和値に近づくなめらかな形が得られるが、未ソーピング試布による③, ④の場合は、脱着速度に段階的な変化があり、幾つかの折れ点が見とめられた。これら溶出に不連続性の観察される特異点の持つ意味を考察し、特に表面染着染料の量を溶解速度から推定すること、本法では可能と思われる。